

令和4年度 学校評価の概要

【評価】 4「たいへんよい」 3「ややよい」 2「あまりよくない」 1「まったくよくない」

設 問 (数値の青は昨年度より0.3P以上上がった項目、赤は下がった項目)	地域		職員		児童	
	R3	R4	R3	R4	R3	R4
1 高島分校は子どもの確かな学力の向上に力を入れている。	3.8	3.5	3.8	3.5		
2 高島分校は子どもに豊かな心をはぐくもうとしている。	3.9	3.7	3.8	3.8		
3 高島分校は子どもの体力向上・健康教育に力を入れている。	4.0	3.7	3.8	3.8		
4 高島分校は地域の文化を生かした特色ある教育活動を進めている。	3.9	3.7	3.5	3.8		
5 高島分校の子どもはなかよく楽しく学校生活を送っている。	3.9	3.8	3.8	4.0	3.5	3.7
6 高島分校はいじめが防止されている。	3.8	3.5	3.8	3.8		
7 高島分校の先生は子どもをよく理解し授業がわかりやすい。	3.5	3.6	3.8	4.0		
8 高島分校は安全に配慮した明るい環境づくりを整えている。	3.7	3.8	3.8	3.8	3.1	3.7
9 高島分校の先生は一人一人の子どもを大切にしている。	3.8	3.5	3.8	3.8	3.9	3.9
10 棧橋待合室の「分校掲示板」は、とても有効である。	3.7	3.7				

【保護者、地域からの意見】

- ・児童数が少ないデメリットを減らし、メリットを強みとして伸ばしていただいております。大変ありがたい。
- ・世間のニュースでは学校（先生）の指導の行き過ぎなどが問題になっている。体罰は決して良くないが、私たち親は「学校や先生方の責任だけが報道されているが、子どもの側に問題はなかったのか」と思いながら報道を見ている。我が子が先生方にきちんと叱ってもらったり指導してもらったりすることに感謝している。様々な保護者がいると思うが、これからも高島の子どもたちのために力を貸していただきたい。
- ・分校のホームページを拝見している。他ではできない体験をできることが、本当に恵まれていると思う。大切な心が育っていると思う。

【考察】

保護者・地域の方々の評価は、昨年度と比べて多少の増減はあるものの、全体としておおむね高い数値であり、高評価をいただいていると言える。意見の中にもあるように、児童数が少ないからこそそのメリットを生かした学習指導、高島だからできる特色ある体験活動が、伝統として脈々と受け継がれており、児童の心を豊かなものにしていただいているのだと伝わっていることが、大変ありがたい。一方で、特に地域からの評価において昨年度より数値が下がっている。取組の発信、成果を重点に置いた取組の見直しが必要と考える。

ア 学力向上について

- ・令和3年度末の全学年の学力調査、4月の県学力調査、新年度初めの学習の様子や単元テストなどをもとに、全職員で児童一人一人の学力を分析・把握したところ、個人差が大きいものの、今年度の課題は全体として語彙力向上や「読む・書く・話す・聞く」の言語活動の充実が重要であると考え、個に応じた学習指導、授業改善に取り組んできた。4月に比べれば、どの児童も大きく成長が見られたものの、それぞれの学年で身に付けるべき学力は不十分な点もあり、結果として1の項目で評価が下がったものとする。今後も研究内容を検証し、取組を改善・継続していかねばならない。

イ 特色ある活動について

- ・新型コロナウイルスの影響はまだあるものの、徐々に以前の取組が戻ってきており、本校の特色ある活動である「音楽いっぱい活動」の1つ、しおかぜバンドの市音楽発表会とあいあいプラザまつりへの出演が再開された。その他、例年行っているカキの観察人工漁礁（シェルナース）に関わる環境学習、お魚さばき教室や保小連携の交流など、多くの活動に取り組むことができた。一方で児童数・職員数の減少やバンド活動の難易度の高さ、行事のための準備時間増など、児童にも職員にも負担増になっている部分は否めない。内容の精選、簡略化を視野に入れていく必要がある。

ウ 育友会との協力について

- ・今年度も多くの協力を得ることができた。前述したが、高島分校には多くの行事や取組があり、職員も少ないため保護者・地域の協力なしには実施できない。育友会役員を中心に何事も積極的に活動していただき、大変ありがたい。

エ いじめの防止・子どもたちの人間関係について

- ・校内でのいじめはなく、小さなトラブルについてはその都度職員で情報共有し、全員で指導に当たっている。しかし、学校外でトラブルが1～2件あった。一つは人間関係の固定が原因と考える。教師の指導の仕方でも児童の人間関係を固定してしまうことがあるので、そのようなことがないよう、今後も児童に寄り添い、一人一人のよさをお互いで認め合えるような指導・支援を行わなければならない。